

# 公開講座 第30回心身症セミナー 報告

先に実施しました公開講座「心身症セミナー」について下記のとおり報告します。また、あわせてご参加いただいた皆様、運営にご協力いただいた皆様に心よりお礼申し上げます。

## 1 第30回心身症セミナーの概要

日時 令和2年11月2日(月) 午後2時15分から5時00分

場所 大阪府教育センター

対象 府内の幼稚園、保育園、小学校、中学校、高等学校、支援学校の教員及び教育関係者

内容 テーマ「不登校を伴う子どもの心身症に対する理解と対応」

### (1) 実践報告「できることから始めよう」

茨木市立玉櫛小学校 教諭 竹内 朋子

学校の概要説明の後、入学時から支援学級や学校全体で長期にわたって取り組んだ実践について報告があった。どの取り組みにおいても、子ども本人に対してだけでなく、家庭に対しても他機関と連携しながら支援していくことを大切にしていた。また、アセスメントの必要性や今後の進路選択についての課題も報告があった。

### (2) 「不登校を伴う子どもの心身症に対する理解と対応」

堺咲花病院 心身診療科医師 村上佳津美

不登校や子どもの心身症に関する説明の後、不登校と関連の深い疾患として起立性調節障害、機能的消化管障害についての解説があった。不登校の子どもの対応の仕方や医療機関と学校との連携の仕方については、学校としてできる具体的な手立てや背景因子を考えるなど、支援のポイントについて説明があった。説明の中では、実践報告の内容と同様に子どもだけでなく家庭へのフォローがいかに重要であるか、また、家庭や医療との連携のポイントとして、お互いの立場を理解することの重要性も説かれた。今後の課題としては、子どもの健康度調査(QTA30)の取り組みデータから読み取れることについて報告があった。質疑応答では、非常に丁寧な説明があり、講演、質疑応答ともに充実した内容であった。

## 2 アンケート結果報告 (アンケート回収44名、未回収1名、回収率98%)

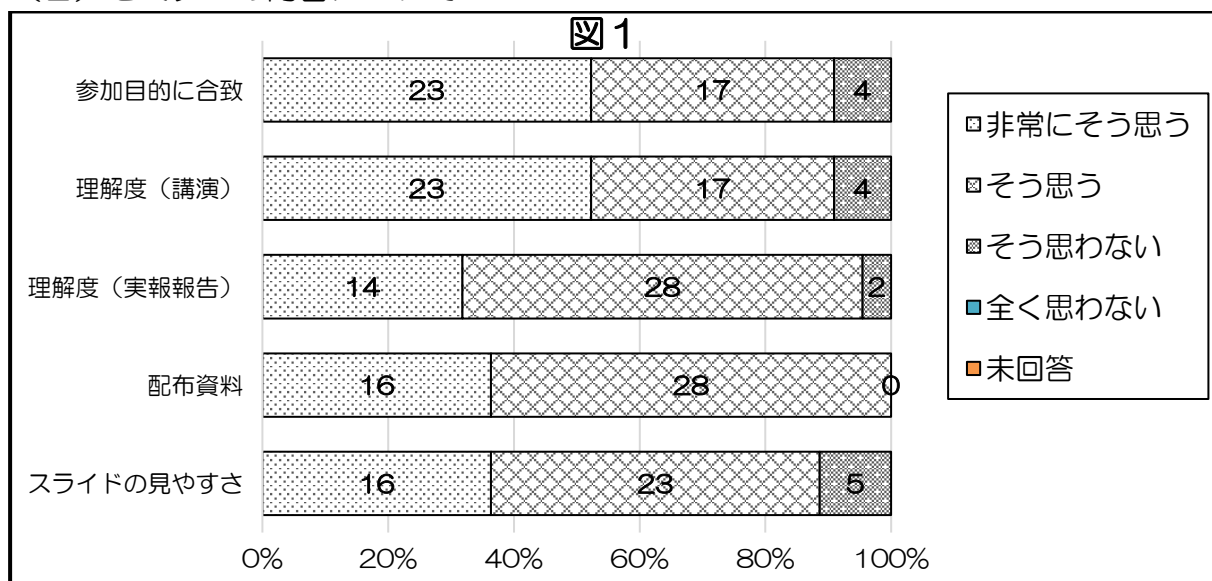
### (1) 参加者について

外部から45名(幼・保0%、小学校48%、中学校34%、高等学校2%、支援学校5%、その他11%)の参加があった。職種では、教諭・講師が最も多く55%、次いで養護教諭・助教諭が27%、管理職が11%、その他が7%であった。

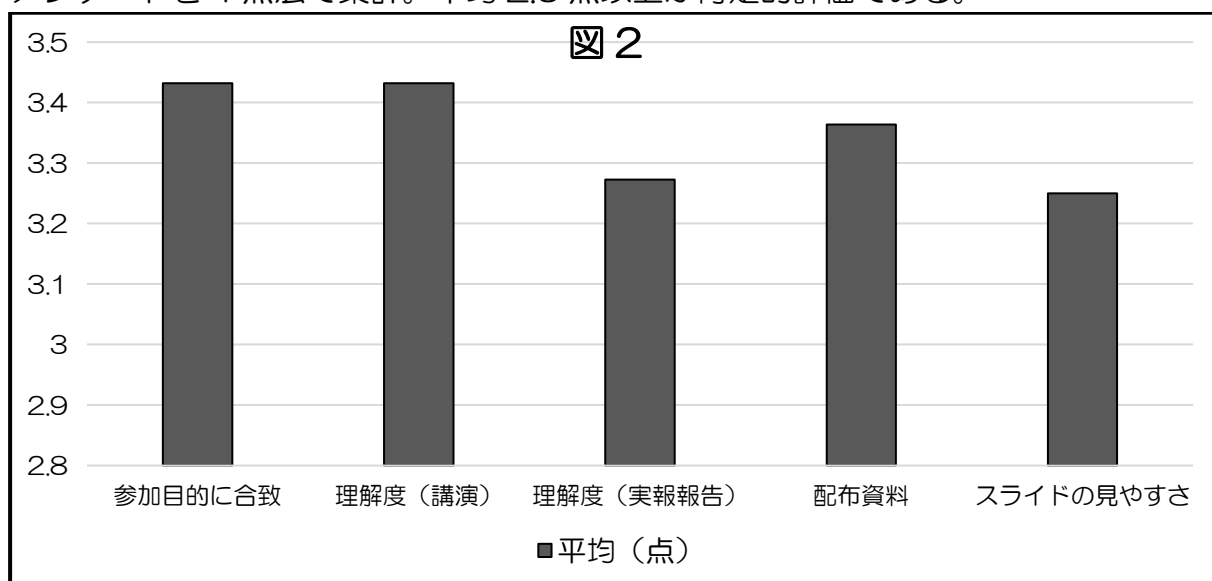
所属	幼・保	小学校	中学校	高等学校	支援学校	その他	未回答	合計
(人)	0	21	15	1	2	5	0	44

職種	管理職	教諭・講師	養護教諭・助教諭	その他	未回答	合計
(人)	5	24	12	3	0	44

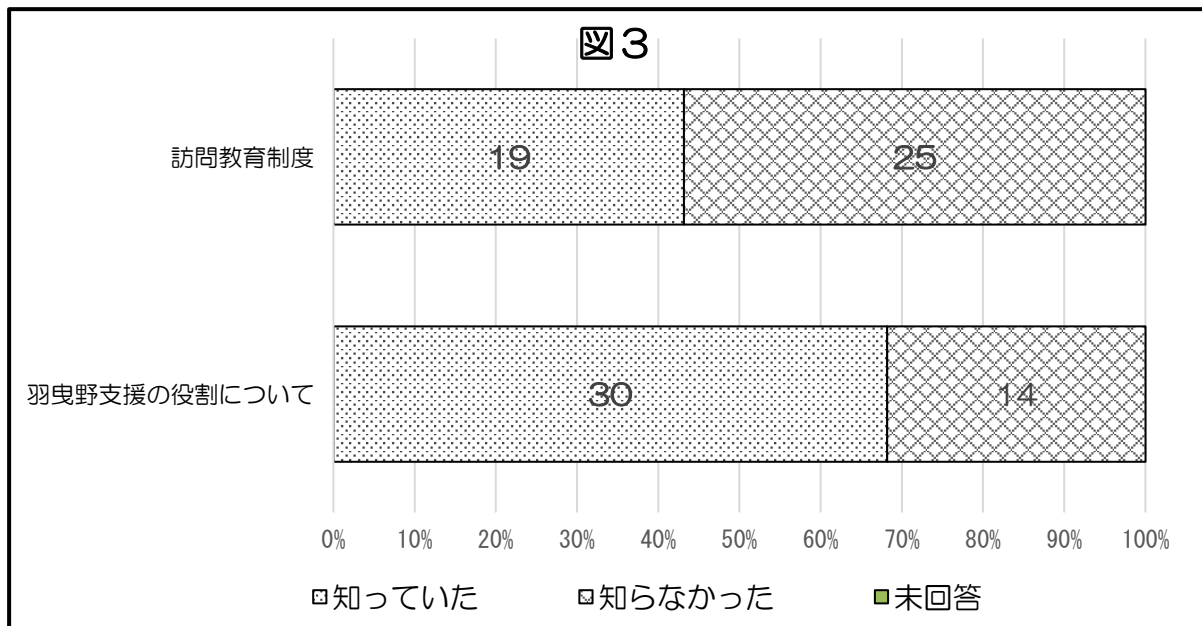
(2) セミナーの内容について



アンケートを4点法で集計。平均2.5点以上が肯定的評価である。



### (3) 羽曳野支援学校の役割と訪問教育制度について



### 3 考察とまとめ

(1) 例年多数の参加申し込みがある中、今回は新型コロナウイルス感染症予防のため、募集人数を100名から50名に減らして実施した。毎回、100名の募集人数が受付開始当日にうまってしまいが、今回も申し込みの受付開始から1時間で50名を満たした。心身症セミナーは30回目を迎えたが、不登校を伴う心身症の子どもたちへの対応については年々関心が高まっていることがうかがえる。

(2) 図2では、どの項目についても3点を超えており、好評であった。

(3) 質疑応答では、現代社会においてしばしば話題にのぼるSNSやゲーム依存の問題、家庭環境の問題など、不登校や心身症を伴う子どもへの対応において、非常に困難な事例が多く挙げられた。